

帯広市内で確認されている特定外来生物の例（植物）

	オオハンゴンソウ 北アメリカ原産で明治中期に観賞用に導入されたものが野生化し、現在では全国に分布します。キク科の多年生草本で、高さは 0.5～3m 程度にまでなり、時に大群落を形成し、勢力の広がりが在来種にとって深刻な状況が懸念されます。
	オオキンケイギク 北アメリカ原産のキク科の多年生草本で、高さは 0.3～0.7m 程度。強靱な性質のため全国的に野生化し、河川敷や道路にしばしば大群落をつくっており、在来生態系への影響が危惧されています。
	アレチウリ 北アメリカ原産のウリ科の一年生草本で、生育速度が非常に速いつる性植物で、長さ数～十数mになる。群生することが多く、河川敷等で大繁茂し、河原の固有種との競合や駆逐のおそれがあります。

写真出典：環境省ホームページ「日本の外来生物」

オオハンゴンソウ・オオキンケイギク等は、自宅の庭や花壇に植えないでください。

ご自宅の庭や敷地内で見つけた場合は、駆除にご協力をお願いします。

＜駆除方法＞

- 1 種子ができる前に、根から引き抜く。
- 2 その場で、天日にさらして枯らせる。
- 3 ごみ袋に入れて、燃やせるごみとして出す。